

## ■ 車両分解調査活動

### SUZUKI eVITARA 車両展示説明会（会員限定）

次世代自動車センター浜松では、会員企業の皆様が次世代自動車向けの部品製造にチャレンジできるよう、EVの車両分解調査活動などを通して次世代自動車技術に関する情報提供を実施しています。

2026年度には、日本メーカー製最新EVの「SUZUKI eVITARA」の分解調査を実施する計画です。この分解調査に先立ち、1月29日には「車両分解活動報告会」において車両を展示するとともに、2月16日、17日には「試乗会」を実施しました。

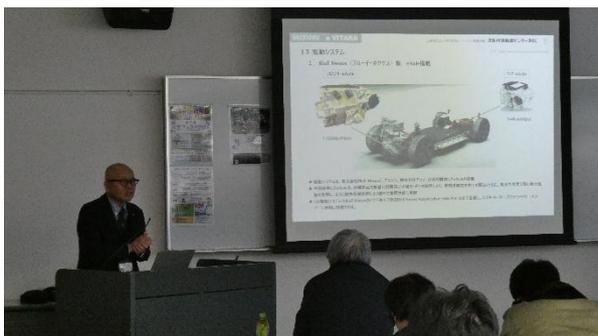
今回、「試乗会」に併せて、会員企業の皆様に、次世代自動車に対応するための調査・研究の一環として役立てていただくため、「SUZUKI eVITARA」の実車に触れていただくとともに、車両の概要について解説する「車両展示説明会」を開催しました。

■日 時： 2026年2月16日（月）・17日（火）  
・車両展示 12時～12時40分 ・説明会 13時～13時40分

■場 所： 交通教育センターレインボー浜名湖

■参加者： 25社／53名

<説明会>



<展示車両見学>

(参考展示: BYD SEALION7)



## 【参加者の声】

- ・各ユニットの仕様（バッテリー、eAxle）の詳細スペックについて確認できた。
- ・カタログではわからない車両情報について、資料や実車で確認できた。
- ・プラットフォームの衝突安全性、バッテリーが潰されず、安全確保ができており、運転支援システムも十分であり、よく理解できた。
- ・車両概要を学び、機構を理解することができた。インドで生産していることも学んだ。
- ・プラットフォームから各機能の説明がわかりやすかった。
- ・バッテリーパックの説明を聞くことができた。
- ・車両に使われている技術について知ることができ参考になった。
- ・来年度の分解調査に向けて事前の内容確認として適切な情報量でした。
- ・最近のトレンドを知ることができ、とても参考になった。また、自分の分野以外について知ることができた。
- ・弊社が関わる部品が使用されているか見ることができた。
- ・サスペンションの説明と車両でいくつか部品を確認できた。
- ・車両を細部まで確認でき、可能な範囲で測定もさせていただいた。ディーラーなどではここまで時間を使って確認はしづらいため、とても良い展示会だった。
- ・部品がどのように取り付けられているか、構造や特徴が事前にわかって良かった。
- ・普段、EVのボンネットを開けてみる機会がないため、最新のEVがどのようなパッケージをしているのかを知ることができた。
- ・BYDとの比較展示により、車両それぞれの強みと特徴が把握できた。ただし、価格帯が異なる車両であったため、少しBYDが良く見えてしまった。
- ・eAxleが大きく、ボンネット内のスペースがかぎられている印象だった。
- ・インテリアの質感も車両価格に応じて高められていることがうかがえた。
- ・BEVとしての外観、室内高等が参考になった。
- ・締結部品に対してコストダウンの割り切りを感じた。パワトレ系のコストアップ分を少しでも吸収しようと従来の品質基準より落としている印象を受けた。
- ・装備、仕上げ共に市場レベル以上で、販売台数も伸びるのではないかと。
- ・思った以上に大がらで安定、安心があると思えた。
- ・スタイルがかっこいい。内装の質感がよい。サイズのわりに重厚感がある。力強いSUVらしいスタイリングが印象的だった。
- ・室内空間も広く、各種機能も充実していると感じた。
- ・国産EVということでBYD社と比較で実車展示いただいて、よりコンパクトさを感じた。走行距離も433~520kmということで国内での購入選択に加わる1台だと感じた。
- ・これまでのスズキ車にはない近未来でラグジュアリー感のある洗練された印象だった。コストパフォーマンスもあり、皆が手に入れやすいBEVになっていると感じた。
- ・EV特有なのかもしれないが、防音シートなどがしっかりとあり、音に関する対策が多くあるという印象を持った。
- ・想像よりも後部座席が広く、ゆったり座れると感じた。BYDとの大きな違いが、ボンネット内にバッテリー機構があるのだが、整備上どちらが良いのか気になった。
- ・先進的な外観に加え、他社が搭載しているシステムなども漏れなく装備されていた。
- ・eAxleの他車体の接合方法など細部までしっかりと確認ができ、有意義な時間となった。
- ・思っていたよりも中が広く、タフさを感じる車だった。また、ガソリン車と大きくは変わらない感覚で乗れた。